Beanstalk Snow

リフレケア通信♪129号

2020年2月 雪印ビーンスターク株式会社
ライフサイエンス事業部 発行

二十四節気③立春（りっしゅん）太陽視黄経315度。2/4頃。この日から立夏（5/6頃）の前日までが春。まだ寒さの厳しい時期だが、昼間の長さは徐々に伸びる ④雨水（うすい）太陽視黄経330度。2/19頃。空から降るものが雪から雨に替わる頃で、深く積もった雪も融け始める。春一番が吹く頃。

シリーズ第20弾～3
口腔ケア最前線

薬剤師と口内炎・味覚障害の副作用への関わり

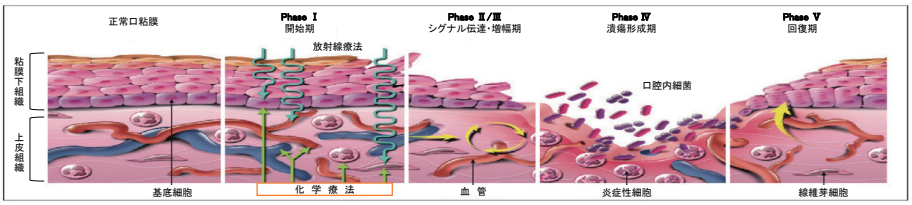
岡崎市民病院
外来がん治療認定薬剤師
鈴木 大介 先生

今回は、私自身が所属している愛知県病院薬剤師会でのお話です。
愛知県病院薬剤師会　がん部会（以下；がん部会）では、愛知県内の病院からがん治療に関心のある薬剤師が集まり、症例検討や他施設との合同臨床研修などを行いがん治療に関して研鑽しています。なかでもがん部会内のツール作成チームでは、薬剤師が日常診療で役に立つツールの作成を行っています。

2018年度は、口内炎・味覚障害に対する予防や治療に関する手引きが少なく、対応に苦慮している現状があるため、「副作用がとけるツール　口内炎・味覚障害編」を作成しました。「副作用がとけるツール」の名前の由来として、手に取ってくれた方の副作用の疑問が「理解できるように解ける・説明できるように説ける・溶けるように解った」と言ってもらえるように作成しました。内容としては、口内炎の病態・治療薬・口腔ケア・予防などの生活習慣のアドバイスについて記載しています。使用した方が、「参考書として使用」「患者さんの説明に使用」と少しでも役に立つツールになるように取り組みました。また、薬剤師は、口腔ケア製品に対しての情報が乏しいため「日本化粧品工業連合会:医薬部外品 成分表示名称リスト」を参考に、リフレケアなど医薬部外品の風味・タイプなど特徴を記載した資料を作成し、患者さんへの説明や選択がしやすいように工夫しました。

患者さんだけでなく、患者さんに指導する側の不安も解消されるよう日々取り組んでいます。

口腔粘膜炎の発生機序・病態



口腔粘膜炎の病態は、5段階に分類される

Phase Ⅰ（開始期）
- 抗癌剤による細胞毒性で粘膜内細胞に活性酸素が発生し、細胞のDNAを損傷することで細胞死を引き起こす。

Phase Ⅱ/Ⅲ（シグナル伝達・増幅期）
- 第1期と同様に、活性酸素により血管内皮細胞・線維芽細胞・マクロファージ・上皮細胞が活性化し、炎症性サイトカイン（TNF-α、IL-1β、IL-6など）を放出し、細胞死を引き起こす。炎症性サイトカインによる組織障害がさらなるサイトカインを誘導し障害はさらに増幅される。このため粘膜炎はさらに増悪する。

Phase Ⅳ（潰瘍形成期）
- 第1～第3期による障害により、粘膜表面では上皮層が破壊され、潰瘍を形成する。潰瘍表面には細菌コロニーが形成され、感染が成立する。グラム陰性桿菌の内毒素は潰瘍増悪の原因となる。同時に起こっている顆粒球減少により菌血症や敗血症のリスクが高まる。

Phase Ⅴ（回復期）
- 上皮細胞の増殖・分化により粘膜上皮が再生する。

Copyright © 2018 APSHP All Rights Reserved

Sonis ST. Biological approach to Mucositis. J Support Oncol 2004; 2: 21-36 改変

次回もお楽しみに★

★新製品情報★「整腸のプロバイオ」　2月発売

弊社より、機能性表示食品「整腸のプロバイオ」が発売になります。お通じの悩みといえば「女性」というイメージがありますが、昨今男性でもお通じに悩んでいる方が多いそうです。そこで！オススメしたいのが「整腸のプロバイオ」。お料理や飲み物にかけるだけでビフィズス菌「BB-12™」を手軽に摂取できます。食事の味も変わりません。

こんなお悩みございませんか？
- ●お通じで悩んでいる
- ●腸内環境を改善したい
- ●ヨーグルトは摂りたいけれど食事の量を増やしたくない

お手軽な腸活に♪

お通じ改善に★

無味無臭

整腸のプロバイオはいつもの食事や飲み物に一日1回6滴かけるだけ。手軽に生きて届くビフィズス菌10億個を摂取できます。サプリメントや薬だと続けるのが正直しんどい・・・という方にもオススメ♪

ビフィズス菌「BB-12™」は世界30か国以上で乳幼児向けにも使用されているプロバイオティクス。「整腸のプロバイオ」は香料・着色料・保存料不使用でより安心です。

詳しくは担当者までお問い合わせください♪

※プロバイオティクスとは・・・適切な量を摂取したときに人体によい効果をもたらす「生きた微生物」のこと。

ぷち★まめ知識

「腸活」関連のテレビ番組や雑誌記事など、たくさん見かけるようになりました。「腸活＝お通じ」と想像する方が多いと思いますが、もっと大きな病気と関係があります。それは大腸がん。大腸がんで亡くなる方が右肩上がりで、20年前の約2倍だそうです。特に女性の増加率が大きく、2003年にがんによる死因のトップが大腸がんになりました。その傾向は今も続いているそうです。なぜ女性の大腸がんが増えているのでしょうか？

理由として、食生活の変化により魚より肉を食べる機会が増えたこと、女性の社会進出が進みコンビニ食や外食などが増え、食生活が乱れがちになったこと、そして仕事でのストレスや飲酒も原因とのことです。

統計では、大腸がんは40代から増え始め50代で急増するそうです。進行が緩やかな反面、症状が出たときはかなり進行している場合があるので、20代・30代のうちから定期検診をするといいそうです。